

構想学群教授。福島大学食農学類客員教授や東日本大震災・原子力災害伝承館客員研究員、広野町夢大使等兼務。2017年日本造園学会田村剛賞受賞。博士(環境科学)、趣味はきのこ。

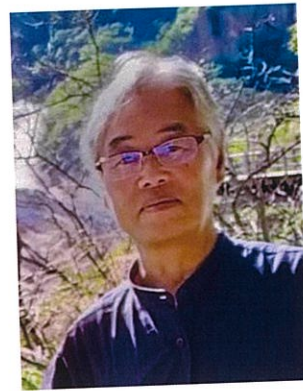


写真6 招待講演者 小沢 晴司氏



講演関連資料

(太田 弘)

閉会式・地図展 2024 優秀賞表彰式 地図・図書展

地図・図書展は、8月24日10時30分から25日15時まで日本大学経済学部1階ロビーにて開催された。今回の出展は、朝日航洋株式会社、海上保安庁、国土地理院、(一財)地図情報センター、東京カートグラフィック株式会社、株式会社東京地図研究社と個人出展の太田守重会員、秋葉愛加会員の6機関及び2名の個人会員であった。

図書は、株式会社古今書院、株式会社創元社及び(一財)日本地図センターが出展し、現地販売も行った。図書展については、十分な周知ができず集客がでなかったのは、今後の課題となった。

今年も例年通り大会参加者による投票により優秀賞



写真7 大会会場風景

3点が選出され、閉会式において会長から表彰状が授与された。以下に優秀賞3点の概要を紹介する。

太田守重会員の「無数の意志 - Myriad of wills」は、東京都が公開している三次元都市モデルに含まれている建築物データを自作プログラムにより独自の投影変換を行い、配色や立体感を与えることによりアートの要素を多分に含む作品に仕上げたものであった。

株式会社東京地図研究社の「凸凹地図でみる能登半島の地形」は、会員には見慣れた凸凹地図により能登半島の地形をビジュアル化したもので、災害復興が進まない一因が、全体的に低平地の少ない能登半島、奥能登の地形にあることを示すタイムリーな企画であった。

秋葉愛加会員の「切り絵の地図『五稜郭』」は、出展された8作品の1つで、地図を切り絵で表すという独自の作風で、非常に斬新かつ緻密なものであった。本件は2023年度瀬戸玲子基金の補助を得て実施された企画展でもあった。今回は額に入った切り絵の地図を鑑賞するというこれまでにない新鮮な体験をした。



写真8 地図展

この他に、朝日航洋からは、得意の陰陽図による地球を表現したもの、海上保安庁からは最新の海図3図と大阪港の今昔図が、東京カートグラフィック(株)から恒例のカレンダーおよび地図グッズが多数出展された。

また、大会1日目のみに「長久保赤水の地図遺産」と題した特別地図展を開催し、海田俊一会員の所蔵する赤水図12点が展示された。展示に併せて特別セッションが設置され、それに先立って展示図の解説が行われた。貴重な地図を間近に見ることのできるまたとない機会に参加者からは感嘆の声が上がっていた。

(浅野 普一)

巡 検

茨城県高萩市、「長久保赤水の「赤水図」の関連史料と史跡を訪ねて」18名参加。

現地案内は佐川 春久氏(長久保赤水顕彰会会長)

行程:

8月26日(月)JR東京駅丸の内「丸ビル」前集合
9:00 バスで東京駅出発 → 11:40 ~ 城下町の町並みバスから見学 → (昼食)松岡小学校郷土資料室(旧松岡城三の丸:藩校跡地) → 高萩市歴史民俗資料館(長久保赤水記念館) → 高萩駅頭の赤水像見学 → 南中郷駅(北茨城市) 頌徳碑見学 → 長久保赤水旧宅(前新屋・後新屋) 見学 → 赤水先生のお墓参り → 19:00 JR東京駅で解散



写真9 巡検参加者



写真10 非公開の赤水図を見入る参加者



写真11 拡大の赤水図を見入る参加者

巡検内容については参加者により別途報告予定。

(太田 弘)

(受理 2024年11月18日)